



ダイヤ工業

医療用品メーカー・ダイヤ工業（岡山市南区古新田）は、スポーツや建設作業を補助する全身サポーターなどの研究拠点「R & Dセンター」（同所）を開設した。体の動きをデータ解析する機材をそろえ、新製品の開発に生かすほか、オータメード品の製作にも役立っている。（水野雅文）

全身サポーター研究拠点

旧本社の建物（鉄骨）を移した。1階を実験フロア、延べ約500平方メートルとし、モーションキャプチャーシステムを改装し、今月、ヤブチャールーム（1日にオープン。現本電計などの計測機材を導社から開発担当者3人入。2階は製品展示室、



全身サポーターを装着した時の体の動きを分析するモーションキャプチャーシステム

旧本社改装オープン 製品開発へ実験フロア

セミナールームとした。3階の活用法は未定。投資額は約3千万円。実験フロアでは、手足の関節など体の30カ所以上に取り付けて、スポーツ選手や作業員の動作を再現。マーカの座標や筋電計のデータを基に、サポーターを装着した時の姿勢の変化や筋肉にかかる負荷を分析する。これまでは必要なデータを岡山大などの共同研究先から入手していた。

予約制で個別ユーザーのデータ測定も受け付ける。それぞれの筋力や動作に合った最適なサポーターを製作できるようにする。今後は長時間同じ姿勢を強いられる外科手術や溶接作業用のほか、空気の力で動く人工筋肉を使った次世代製品の開発も目指す。松尾正男社長は「科学的なデータに基づいて全身サポーターの新製品を提案し、将来の主力事業に育てていきたい」と話している。

ダイヤ工業は1963年設立。全国の接骨院などに医療用コルセットや関節につけるサポーターなどを販売している。売上高39億5千万円（16年3月期）。従業員は、パーを補助したり、姿勢を改善したりするオリジナル製品。2009年にスポーツ用を発売し、14年には建設現場用を投入した。